

NPO 法人 たすけあいの会 ふれあいネットまつど 会報 第40号

え

が

お

発行所:松戸市東平賀7番地の2 TEL/FAX:047-346-0866 E-mail:fnm2011@r4.dion.ne.jp

2011年度通常総会を開催

ふれあいネットまつど
平成23年度通常総会

出席者全員で記念撮影(前列左から3人目に佐久間浩子副代表)。総会終了後、同センター和室で会員懇親会を開催しました。

定款第3条 目的

- (1) 誰もが住み慣れた街で、安心して人間らしく暮らせるように、支えあい、助けあい、ふれあいの気持があふれる地域社会をつくる。
- (2) 手助けを必要とする人々に対して、「困ったときはお互いさま」のたすけあいの精神にもとづく福祉・介護・移動などの援助活動を行う。
- (3) 公益市民団体(NPO等)の支援・協働を通して、住みよい地域社会づくりに寄与する。
- (4) 国・地方公共団体の諸事業に市民の立場で参加して、市民と行政の協働による活力ある地域社会づくりに寄与する。
- (5) 会員・市民が上記の活動に参加することを通して、豊かで生きがいのある人生をおくことに寄与する。

定款を変更、会の目的をより鮮明に

5月28日(土) 小金市民センターホールを会場に、2011年度通常総会が開催され、正会員59名が出席、提出された6議案すべてを満場一致で採択しました。冒頭、議長に選出された石瀬満理事が、病気のため欠席した島田喜七代表の総会に寄せたメッセージを代読。2010年度活動報告・決算報告・監査報告・2011年度活動計画・予算の審議採決、役員選出に続き、定款の一部変更が採決されました。この変更は、1998年の会設立以降積み重ねてきた活動を総括し、今後の発展方向を展望して、会の目的をより鮮明にしたものです。

▼2面・3面Ⅱ総会特集

総会特集

引き続き東日本大震災支援活動の取り組みを

今こそ「たすけあい」の会の真価が試されるとき



選出役員、左から奥田副代表・佐久間副代表・石瀬理事・中原理事・石原理事・森田理事・小池監事（島田代表・嶋根監事は欠席）

■第6号議案
（選出役員）

代表：島田喜七、副代表：佐久間浩子、
奥田義人、理事：石瀬満・石原順二・
中原勇・森田トミエ、監事：小池千恵
子。

総会では、6議案の審議採決のあと、石原
順二理事より、2011年度会員活動の補足
説明（詳しくは3面参照）石瀬満理事より、2
010年度市民活動助成事業報告、会員の細
嶋千広さんより、会のホームページ刷新提案
がありました。

▼下欄に各議案概要

■第2号議案 2010年度決算

（収入の部） 単位：千円

科 目	金 額
会費収入	620
たすけあい事業収入	1,087
制度サービス事業収入	11,922
補助金・助成金収入	2,771
寄付金等収入	976
合 計	17,376

（支出の部）

たすけあい事業費	2,090
制度サービス事業費	8,020
その他事業費	693
管理費等	4,389
合 計	15,192
収 支 差 額	2,183

■第4号議案 2011年度予算

（収入の部） 単位：千円

科 目	金 額
会費収入	660
たすけあい事業収入	1,080
制度サービス事業収入	13,820
補助金・助成金収入	233
寄付金等収入	320
合 計	16,113

（支出の部）

たすけあい事業費	1,864
制度サービス事業費	8,131
その他事業費	1,650
管理費等	4,038
合 計	15,683
収 支 差 額	430



総会終了後、同センター和室で会員懇親会を開催。村上建一さん恒例の腹話術を堪能。なごやかに懇談しました。

■第1号議案 2010年度活動報告（骨子）

- (1) たすけあい活動（ふれあいサービス）では、施設内サービスを除き、利用者、協力者、時間とも前年度水準の活動を行った。
- (2) 制度サービス（ケアステーション）活動では、利用者・提供時間・収入とも前年度を上回る活動を行い、中でも移動支援サービスは前年2倍の時間数実績となった。
- (3) 新入会員は利用会員32人、協力会員12人。
- (4) 会員研修は、新入会員研修を5回、定例会での勉強会を1回、福祉有償運送運転者研修を2回、訪問介護員研修を4回実施した。
- (5) 福祉車両2台を増車（日本財団助成・内部留保金で購入）。日本財団助成の自己負担は会員92人（団体）の特別カンパで賄った。
- (6) WAM助成「団塊世代の地域デビュープロジェクト」実施団体となり、「映画と講演のつどい」、「地域デビューセミナー」を実施した。
- (7) 松戸市市民活動助成事業「たすけあい・よろず相談員制度の必要性調査」を実施。その一環として「認知症講演会」を開催。

■第3号議案 2011年度活動方針・事業計画（骨子）

- (1) 会員区分の見直しで、利用会員の正会員への変更をすすめる。
- (2) 会員の自主的活動を活発にするため、会員活動を再編。チームたすけあいに4グループをつくる。
- (3) 東日本大震災支援活動を市民協・全国プロジェクトと連携して推進。
- (4) NPO間の連携を強めるため、松戸市内NPOネットワークづくりに役割を担う。
- (5) 行政との協働、新事業計画推進のためにプロジェクトチームをつくる。
- (6) ふれあいサービスの「使い勝手」をよくする見直しを行う。
- (7) 制度サービスでは、利用者への包括的支援の視点を徹底する。



東日本大震災支援グループ
東松島市にてパラソル喫茶を展開



ひろがりグループ
ふれあい広場ぶらり市で工作を楽しむ



おでかけグループ
ふれあいコンサート開催

チームたすけあい旧チーム別委員会の再編

事業計画の実施は会員相互の総力で

ふれあいサービス（移動サービス）、制度サービス（ケア・ステーション）以外の会員活動をおこなう体制として、昨年度実施したテーマ別委員会、七委員会を改め、本年度は会の運営をサポートする仲間たちの集まりとして『チームたすけあい』の名称で提案され、本年度の総会で承認されました。その活動内容は、日常業務をカテゴリー別に四グループに分け、それぞれが知恵を出し合いこのチームたすけあいを会員の活動の場として位置づけスタートすることになりました。各グループの主な活動内容はつぎの通り。

おしらせグループ（Aグループ）

おしらせグループは、「困った時はお互いさま」という会の基本理念を、広くおしらせするグループです。活動内容や基本的な方針

ひろがりグループ（Cグループ）

ひろがりグループは、NPOのネットワークの構築、市民協との情報の共有や、会の新規会員募集のための「ボランティア説明会」

おでかけグループ（Bグループ）

おでかけグループは、会員相互の交流の場を企画、外出困難者にむけた郊外散歩の企画等、会員の行事計画や、四季を楽しむ『おでかけ』を支援してまいります。

Dグループ

東日本大震災NPO支援グループ

東日本大震災NPO支援グループは、東日本大震災の復興復旧に向けた活動を行います。募金活動、現地ボランティアの募集、活動を支援してまいります。被災地での『パラソル喫茶』を運営、現地で活動するNPOのスタッフを支援するため、コンサート、新松戸祭り出店、講演会開催など幅広く取り組みをおこなっています。

開催など検討してまいります。また、松戸市の見本市や夏休み福祉体験の取り組みなどをおこないます。



東日本大震災からの復旧と復興をめざして

NPO 法人たすけあいの会ふれあいネットまつどの活動



復興を願う

NPOの継続的な活動が必要

かつてない規模の東日本大震災の被害の状況を目の当りにし、全国各地、各セクターにおいては被災地支援の動きが始まっています。今後、復興は長期にわたると思われる、日本中が力を合わせ、復興の途を被災地のみなさまとともに歩む必要があると思います。

私たちNPOに関わるものとしては、そうした動きに参加しつつも、独自に、被災地のNPOが全国のNPOと連携し、復興の過程において有効な活動を展開することが不可欠だと考えます。「支援者への支援」です。日本において、NPOが独自の存在感と役割を示す多元的な社会をめざしてきた私たちとして、大きな打撃を受けたであろう被災地のNPOが早期に立ち直り、また、新しく結成され、復興のための継続的な活動を行うNPOを支援するという課題に取り組みたいと考えます。この場合のNPOには、特定非営利活動法人（NPO法人）だけでなく、任意団体、各種公益法人、協同組合、地縁組織、社会的企業などのサードセクター組織を広く含めて考えます。

NPOが活動することで、雇用を創出し、被災者、被災地目線の肌理の細かなサービスを提供することができそうです。

私たちの活動として具体的には、復興に関わるNPOに資金、物資、人員を投入すること、そのための資金、物資、人員を広く募集すること。被災地の各NPOに対して、他の地域のNPOが直接に連絡を取りながら中期的な支援をしていくような関係をマッチングすること、避難された被災者のみなさまの受け入れができるNPOの情報収集しその活動を支援することなどに取り組みます。

また、こうした活動の中で企業や政府行政と連携するとともに、企業、政府行政への提言も行っていく予定です。

東日本大震災復興NPO支援

全国プロジェクト世話人一同

新松戸まつり

「第25回新松戸まつり」（7月17日～18日開催）

たすけあいの会ふれあいネットまつどとしては6年ぶりに大震災復興支援として模擬店を出店。この日のために（実行委員会（細嶋委員長）を開催し、多くの会員が携わることで準備をおこなった）開催当日は猛暑にもかかわらず、朝から出足が好調で新松戸の商店街は活気づいていた。店頭前での呼び込みや、会員の西村泰久さんの風船バルーンアート効果もあり、売り上げも前回は上回ることができました、なおこの売り上げは支援金とし寄付しました。

パラソル喫茶

（5・6・7月）

東日本大震災復興NPO支援全国プロジェクトの呼びかけで、5月より宮城県東松島市の避難所・小野市民センター、およびひびきの仮設住宅付近で毎月第一日曜日に開かれています。この取り組みは避難所や仮設住宅で閉じこもりがちな避難者のみなさんが、野外でコーヒーやお茶を飲みながら、みなさんと語らいながら絆を広げていくためのもので、阪神大震災の仮設住宅での孤独死問題の中から生まれたとりくみです。

講演会 講師 田中尚輝

（NPO全国支援プロジェクト世話人）
被災地の現状と復興へ（5月）

冒頭に義捐金と支援金の違いについての説明がなされ、NPOの役割の中で支援金を届けボランティアも被災地に集中していくという話をされる。この8月からは避難所から仮設住宅への移行となるが仮設住宅の問題点として『孤立』があるが、私たちは目下避難所と仮設住宅で「パラソル喫茶」を展開、今後も地域を拡大して開設、また、生活を支えるための『就業』『町づくり』などにも息長く支援を行う予定であるなど、復興支援の現状を力強く話された。

コンサート竹内恵里と

の仲間たち（5月）

コンサートは、5月28日小金市民センターにて開催、当日の入場料金500円をすべて復興支援の支援金とし、100名近くの方々が参加され昭和の名曲・演歌や歌を熱心に聴かれていた。手話ソングの講師でもある竹内恵里さん指導による「手のひらを太陽に」では全員が手話を交えて歌い、楽しいひと時となりました。



ふれあいネットまつど

チームたすけあいの取り組み

- ① 市民協・復興NPO支援全国プロジェクトに結集
- ② 支援金募集活動
- ③ 大震災体験・対応アンケート
- ④ 当会福祉車両（島田車）を仙台に派遣
- ⑤ チャリティーコンサート開催
- ⑥ 講演会開催
- ⑦ 新松戸まつり出店
- ⑧ 被災NPOへの支援ボランティア派遣
- ⑨ パラソル喫茶

東松島市で「パラソル喫茶」

被災地でボランティアに参加して

東松島市ひびきの工業団地内の仮設住宅で、7月3日（日）「パラソル喫茶」を開店、仮設住宅で仮暮らしをする多くの被災者の方々と、チームたすけあいのメンバーは楽しいひと時を過ごすことができました。

腹話術と笑顔 村上健一

あの日（3月11日）から4ヶ月になろうとしている、7月3日（日）に訪問。行く時見た光景（家が崩れたり、鉄道が無くなったり、家の基礎コンクリートだけになったところ、ブルーシートで覆われた屋根・・・）テレビでの映像で見るのとはまた変わった、やるせない気持ちになった。この日のパラソル喫茶は、ひびきの工業団地内の仮設住宅2ブロックで開催。集まった人たちのお話を聞いた。家が流されたり、身内の人が亡くなった状況のお話をされていたが、表情は意外に明るかった。これは4ヶ月になろうとしている現在、涙枯れ、悔しさに枯れた時間の経過がやっと明るくみせられる（心の内はまだまだ計り知れませんが・・・）ようになったのだと思いました。

私も用意した腹話術人形と手品を、これまた、ちょっとやりましたが真剣に見ていた人々のせつない背景が一時でも和ませることができたかなと思えば、良い経験をさせていただきました。

最後に、仮設住宅の村長さんのお礼、みなさん地域として仲間として元気にやっていくとのことで頼もしく感じました。

傾聴の大切さ 細嶋千広

前回パラソル喫茶を実施した、小野市民センターは、大半が仮設住宅へ移ったのだろうか、今回はひびき工業団地内の仮設住宅を会場として実施、当会からの主なイベントは、腹話術、マジックショー、折り紙、ほかに全国から古着や陶器などが届けられていた。パラソル喫茶に参加していただいた被災者の方々からいろいろな話を聞かせていただいたので、これからは継続的に「笑顔を提供しよう」「季節物を提供しよう」「ちびっこ対策もしよう」ポジティブ志向になる現地では笑顔が特効薬なのである。

パラソル喫茶で中国茶 友山邦雄

はじめは避難者の方々とどんな話をしたら良いのかと戸惑いました。お茶を飲んで楽しんで頂こうと心がけました。でもお茶を飲んで、お茶の話をしていると、お茶の葉が開いていくように心が開いていくのが分かりました。お茶の力、寄り添う力というようなものを感じました。その後自然と被災の様子や家族のことを話してくれました。

帰り道、東松島市の様子を目の当りにしましたが、復興には長い時間がかかるなど実感しました。継続して関わっていかなければいけないと思いました。

勇気や元気をいただく 石原順二

各方面から名前も知らない人たちが、同じ目的で集まる、同じ方向を向き合い同じ流れの中でボランティアとして働く、動きかたや感じかたはそれぞれ違うが、少しずつ連帯感が生まれてくる、緊張していた顔がすこし赤ら顔にかわってくる、パラソル喫茶では決められたルールや規則などはないが、自然とその日のルールが生まれ小さなチームとして動きはじめる。

世の中には優しくって素敵で、素晴らしい人達がこうも沢山存在することに、感激する。ボランティアは助けることでなく、みんなから勇気や元気をいただけるものなのかも知れない。この日の東北の空は、すっきりしない曇り空、ときどき見えた青い空は印象的でした。

復興までの長い道程、毎回開催されるパラソル喫茶でもいろんな問題があるが、それでもテーブルに集まる仮設住民の方々の笑顔を見ると、多くの時間を費やす議論よりも、現地に行って、その時間に立会うことが何より大事なことと思う、限られた時間の中であるが、しばらく東北をめざして旅を続けてみたい。



事務局だより

21 世紀の森に広がる笑顔

春のお出かけに会員39人

4 月

4 月 30 日 (土)、さわやかな新緑の 21 世紀の森を会場に行事イベント委員会 (委員長・石原順二理事) 主催「春のおでかけ」が、利用会員・協力会員・賛助会員交流の交流を目的に、移動困難な方を自宅から送迎して行われました。アコーディオン演奏 (小山さん) に合わせた歌声が風にのって公園に響きわたり、お昼をいただいた後、お待ちかね、村上建一さんの手品の披露、恒例の佐久間副代表のふれあいクイズなどを楽しみました。



当日は車イス利用者 (障害者・高齢者) の自宅から会員がボランティア送迎を行う。

5 月

FAX 電話機・パソコン寄贈受ける

NPO 法人イーパーツの寄贈プログラムに応募したも

の。FAX 電話機は事務所 102 号室のものを 3 台取替え。機種が統一されたことでコスト削減になりました。パソコンは 1 台をケアステーション業務用に、1 台は 101 号室集会所で会員活動用に。自由に使えます (ミヤギさん接続)。

齋藤政夫さん (協力会員) よりワゴン R 寄贈 会所有車 4 台 (福祉車両 3 台) に



正会員 (協力会員) の齋藤政夫さんより軽自動車スズキワゴン R (4 人) が会に寄贈されました。会員の持ち込み車両以外では初めてのセダン型になります。6 月より移動サービス (福祉有償運送) で活躍中。

6 月

運転者研修会を開催 セダン・福祉車両演習に 25 人



午前の部は「えがお」号を使って乗降介助演習

ヘルパー研修会で「ヒヤリハット」

6 月 22 日 (水) に 10 人の出席で開催された第 1 回の研修会では、サービス提供責任者の森田トミエ・渡辺薫さんの報告の後、出席者が各自提出した「ヒヤリハット」事例を検討。大きな事故につながらないようにするためにどうするか、全員が積極的に意見を出し合いました。

第 1 回新入会員研修会開催

6 月 1 (水) 日開かれた、第 1 回研修会には、4~5 月入会の 3 人 (中良夫さん・鶴飼稲子さん・土屋満江さん) の正会員が出席。会の理念・目的、ふれあいサービスのルールの講義を受け、理事と懇談しました。

医療法人社団弥生会

旭神経内科リハビリテーション病院

<http://www.yayoiikai.or.jp>

松戸市栗ヶ沢 789-10 TEL047-385-5566

受診・入院等のお問い合わせは相談室までご連絡ください



併設施設：介護老人保健施設／
通所介護／訪問看護／訪問介護
／居宅支援事業所／小金原地区
在宅介護支援センター

介護保険工事件数が 5,000 件を超えました。

この経験により、最適な改修プランや用具レンタル
用具販売をトータルでご提案致します。

介護住宅リフォームの専門店
福祉用具レンタル・販売

㈲ジェイエム建築企画

本店／〒271-0074 千葉県松戸市緑ヶ丘 2-257-2

TEL: 047-330-0022 FAX: 047-330-0027

柏事務所／〒277-0852 千葉県柏市旭町 7-1-10-202

TEL: 04-7141-6267 FAX: 04-7141-6268

私が育った故郷の夏

自然を味方にした夏

吉田和子

名古屋



あー暑い暑い・・・外はアスファルトが溶けるような暑さ。昭和30年代の名古屋の夏です。

クーラーのない時代、昼間は家中涼しい場所を探し回りついに玄関の廊下でスヤスヤ昼寝。夜は一大イヴェント。家族総出で蚊帳をつり、窓を開け放し蚊取り線香を焚き、夜風を感じながらスヤスヤ。そうか、子供のころは家族一緒に寝起きし、風という自然を味方に夏を乗り切っていたんだなあと思ひ出しました。近所

の友達と庭一面背丈ほどのびたコスモスにコンニャクを吊るしおぼけごっこをしたり、毛布と棒でデントもどきを作りキャンプをしたり楽しかった事ばかりです。よく遊びました。母がカルピスで作るアイスキャンデー、ひんやり甘酸っぱい味が口の中いっぱいひろがり体が冷たくなるように感じました。「えがお」原稿依頼のおかげで、忘れていた幼き頃家族で暮らしていた記憶がよみがえりました。現在92歳になる母に感謝。



兄とケンカしながら

大條敬郎



釧路

まず。北海道に生まれ、広い台地で育まれたこの身体と喉、声はバリトンです。』

『オ
オエ
ダヨ
シロ
ウト
申し

これは私が婚礼司会者としての自己アピールの冒頭のセリフです。出生地は霧多布（キリタツ）という小さな漁村で引き潮の時だけ唯一の交通機関のバスが通ったと親から聞かれました。肺結核を患い入院していた父の看病をしながら2才違いの兄と私を育ててくれた母は保健師として自転車で走り回っていました。私が一歳半の時に父が他界し、生活に困った母は、資格を生かし医者への届かぬ田舎の住居付の仕事を選び後に釧路という町に移り住みました。夏の思い出といえば、釧路川の花火大会、盆踊り、川遊び、兄とケンカをしながら食べたスイカ等でしょうか・・・。

小学校3年生迄過ごした釧路は、とにかく魚が豊富で今でも毎日口にしたいと物足りない程です。冒頭のセリフに戻りますが、お陰で丈夫な身体だけが私の自慢です。取りとめの無い事を書いてしまいましたが今、『たすけあいの会ふれあいネットまつど』の仲間の細嶋さんが勤務するナースینگプラザ流山に入所している母（アキエ）に感謝の気持ちを含めてペンを置きます。



東平賀7番地 編集局

希望の星「なでしこジャパン」のW杯初優勝は久しぶりに明るいニュースでした。■星といえば今、空前のプラネタリウム・星ブームです、名古屋では世界最大の体験型、渋谷には懐かしい五島のプラネタリウム「コスモプラネタリウム」として返って来ました。羽田空港では、空港内としては初めてのプラネタリウムがオープン、星空を写すだけでなく音楽を楽しみながら宇宙旅行をしている新感覚で楽しめるとか■『星』にちなんで、日本で初めての特殊切手「星座シリーズ」が発行されました■大震災の復興を願い、「星に願いを」「上を向いて歩こう」など星がテーマの多くの歌もうたわれています■節電の猛暑を乗り切る秘策の一位、出かける時に水を持って行くとか、熱中症には十分注意をしましょう■世界の人々が日本の空を見つめている、宇宙の空からも地球が今、注目されている、こんな時だからこそみんなの手、みんなの気持ちを一つにして、東北の空をもう一度見つめてみよう。

編集局 赤とんぼ